HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	職場・業務紹介 附属植物園
Author(s)	津久井, 孝博
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1, 58-58
Issue Date	1994-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35272
Type	departmental bulletin paper
File Information	1_p58.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

津久井　孝博（絶滅危惧種・苗圃担当）

◆職場紹介

平成２年度に庭園部門として採用されました。担当としては、研究部門と協力して絶滅危惧種の繁殖様式の解明とその増殖保全、海外からの研究試料請求に対する対応業務を行っています。また園内の維持管理作業も行っています。

◆仕事内容

①絶滅危惧種の繁殖とその保全

植物園の目的はいろいろありますが、その中のひとつとして、種の多様性を考え、その保全に積極的に働きかけるという役割があると考えます。特に絶滅危惧種あるいは危急種と呼ばれる植物は、生育環境への適応が特殊化している場合が多く、それらに対して適切な処置をすることが求められています。

そのためには１）危惧種、危急種の分布その個体数の現状把握、２）フィールドにおける繁殖様式を解析しそのデータをもとにしてそれぞれの種に適切な繁殖方法の確立、３）遺伝的な多様性の維持のために効率の良い採種法とその保存法の確立、４）危惧種、危急種を植物園に移動し栽培条件下におくか否かの判定基準の作成などの解決しなくてはならないいくつかのポイントがあります。

本年度は、本学天塩演習林内に自生するサクラソウ属の固有種、テシオコザクラ(Primula takedana)繁殖様式の調査に着手しました。

特にテシオコザクラは異型花柱性(詳しくは２型性(distyly))という特殊な交配様式を持っており、その種子生産は生育地の環境条件(特に受粉機構に関連して）に影響されることが予想されました。来年度は本種の受粉システムについて詳しく調べ、それが種子生産に与える影響を評価し、効率良い増殖に関するルーチンワークの確立に努力する予定です。

②海外からの試料請求

植物園にはいろいろな国から研究のための試料請求の依頼が来ます。

試料としては野外の自生の種子が最も多くあります。それぞれの研究の目的が異なっているため、試料の依頼者と連絡を取りながら、種子の採種、調整方法やその輸送法はそれぞれ変えて行っています。作物の採種と異なり、野生植物の種子は質、量ともに均一性を欠き、更にその多くが昆虫による食害を受けているため、種子の調整、食害昆虫の防除と滅菌処理は不可欠であり、かなりの時間を要します。また試料の証拠標本の採集、作成も大切な仕事です。

本年度はViola(U.S.Aからの要求),Acanthopanax(Korea)などの種子の依頼がきました。依頼内容として多かったものは、分類学的研究のためのDNA分析の試料で、野生種でオリジンの明確なものが要求されました。

◆今後の方向または希望

いろいろなニーズに対応し、それに応えられる魅力のある植物園作りのための一つの方向として、種の多様性の維持という面からアプローチしていきたいと思います。